

ヨコハマ市民まち普請事業

# 整備事例集 vol.8

●●● 平成 25 年度整備事例集



私たちのまちを  
私たちがつくる  
きっとまちが好きになる

ふ-しん【普請】「普く請う(あまねくこう)」とも読み、「力を合わせて作業に従事すること」という意味が含まれています。「公共」は行政によってのみ担われるものではなく、特に地域に根ざした身近な課題への対応などに市民のみなさんが主体的に関わることで、参加する人や地域に暮らす人々の満足感を高めることに繋がっていきます。「まち普請」には、市民に身近な「まち」に「普請」の輪を広げていきたいという願いが込められています。

まち普請事業についてはホームページをご覧ください。 <http://www.city.yokohama.lg.jp/toshi/chiikimachi/machibushin/>

まち普請

検索

横浜市地域まちづくり推進委員会  
ヨコハマ市民まち普請事業部会委員（五十音順）【24年度選考委員】

- 河上 牧子 慶應義塾大学産業研究所共同研究員（都市政策・コミュニティ計画）  
木下 勇 千葉大学教授（緑や子どもの環境のデザイン）  
嶋田 昌子 NPO法人横浜シティガイド協会理事（まちづくりNPO）  
末永 浩之 公募市民  
轟木ひろ子 国際草の根交流センター事務局長（NPO研究）  
名和田是彦 法政大学教授（公共哲学・コミュニティ論）  
松本 道雄 公募市民



ヨコハマ市民まち普請事業  
整備事例集 vol.8  
平成25年度整備事例集

CONTENTS

- P.6 提案が実現に至るまで  
P.5 整備事例 ③ 中川駅前中央遊歩道のルネッサンスプロジェクト（都筑区）  
P.4 整備事例 ② 瀧乃川源流の湧！優！悠！防災井戸作り（神奈川区）  
P.3 整備事例 ① 夢・街のナビゲート 大倉山コンシェルジュパーク（港北区）  
P.2 事業のあらまし

事業のあらまし

「ヨコハマ市民まち普請事業」は、横浜市地域まちづくり推進条例に基づく支援策の一つとして、平成17年4月に始まり、26年4月で10年目を迎えました。

この「ヨコハマ市民まち普請事業」とは、市民の発意とアイデアによる地域課題の解決に資する施設（ハード）を、身近な地域の公共空間や私有地などに整備する提案を募集し、2回の公開コンテストにより選考された提案に対して次年度最高500万円の整備助成金等を交付する事業です。整備場所又はその近くの在住者、事業者又は土地・建物の所有者等の3人以上のグループであれば、どなたでも応募することができます。18年度から整備が始まり、25年度までに35か所が整備され、地域の皆さんのまちづくりの夢が実現しました。

今回は24年度に選考され、25年度に整備を行った3か所をご紹介します。24年度に実施した1次コンテストには、10件の応募があり、このうち6件が通過しましたが、1件が参加を辞退したため、5件が2次コンテストに臨み、3提案が整備助成対象に選考されました。

この事例集では、この3提案について、応募に至った経緯、グループのメンバーや地域の方々がコンテストに臨むまでに積み重ねてきた試行錯誤や工夫の様子、実際に整備を行う中で生まれた地域での新たなつながりや新たな課題、そして完成した施設などを紹介します。

自分たちのまちへの思いを自らの手で形にしていく「ヨコハマ市民まち普請事業」。次は皆さんのまちで取り組んでみませんか。

事業の流れ（平成24年度）

ヨコハマ市民まち普請事業部会  
（学識経験者・まちづくり実践者・公募市民）

市民自ら  
整備・維持管理を実施  
整備助成金として  
最高500万円を交付

【2/3(日)】  
2次コンテスト  
開催

【10/14(日)】  
活動懇談会・  
成果報告会開催

【6/23(土)】  
1次コンテスト  
開催

【4/9～5/11】  
整備提案募集

自ら主体となって  
生活環境の整備を  
したい市民グループ

整備事例  
1

# 夢・街のナビゲート 大倉山コンシエルジュパーク(港北区)

## くみせ・ひとがつながる”まちのおへそ(中心)”

東急東横線大倉山駅から徒歩4分、エルム通り商店街の中に「大倉山おへそ」があります。もとは商店街の事務所だったところが、「まち普請事業」で多くの方が集まることのできる「大倉山おへそ」に生まれ変わりました。

もともと大倉山近辺には、在宅で仕事をしている母親世代が多く、「仕事ができるワーキングスペースがあると便利だね」と話をしていました。「商店街の事務所が多様な人たちの集まる地域の拠点になると、もっといいね」という声が、母親を集めたワークショップ「大倉山つながりJAM」で盛り上がり、「まち普請にチャレンジしてみよう」ということになりました。

商店街の方々に相談し、商店街事務所を拠



エルム通り商店街を歩いていると看板が目に入る

点に改修することになったのは応募締切の2週間前。慌てて申込書を作成し、コンテスト

で熱い思いを審査員に伝え、見事一次コンテストを通過。でも、大変なのはそこからでした。商店街の方々は賛成してくれましたが、何ができるかをより深く共有するために勉強会をしたり、新聞をつくったりして、将来の姿の共有に努めました。その結果、徐々に意見がまとまってきて、提案内容も具体的になり、二次コンテストを通過することができました。

魅力的な空間をつくるために、端材を組み合わせた壁づくりの作業にメンバーと地域住民が一丸となって取り組み、多くの人が汗を流して小箱ショップの棚や、作業しやすそうな机、インターネットが利用できる室内など、温かな雰囲気の出発点ができました。平日は10時から16時までオープンしていて、当番はボランティアの方が日替わりで務めています。現在は「英会話教室」「歌声サロン」などの貸スペースとして活用されることが増えてきました。地元の人でも気軽に立ち寄り、貸スペースの利用者が「当番になるうか?」とボランティアで参加するなど、支える人の輪も広がっています。

「大倉山おへそ」が商店街のイベント事務局となることも増え、商店街ごとに別々に行わ



壁面の装飾は地域の人も参加して手作りで行った

ボックスショップには大倉山の名産品も並び

れていた七タイイベントが、共同で行われるようになりまし。もう一つの大倉山のコミュニティスペース「結」とも連携し、点から線へ、そして面的な動きが、「大倉山おへそ」から生まれ始めています。

「大倉山は市民の活動が活発なところなので、私たちがそのつなぎ役となることで、新しい動きが生まれる可能性が高いと思います。私たちにできることをしながら、多くの人たちと連携していきたい」と代表は話します。

これまでも商店街の振興などで注目されてきた大倉山ですが、「大倉山おへそ」はその名のとおり、まちの中心となって次のステップに進み始めています。

**夢・街のナビゲート 大倉山コンシエルジュパーク(港北区)**

整備主体：大倉山に地域交流拠点をつくる会  
 整備場所：港北区大倉山2丁目  
 整備内容：地域交流サロン(内装、トイレ、水道、電気ガス等の整備、サイン等)  
 竣工時期：平成26年1月



レンタルスペースは会合やサークル活動などにも利用されているとともに、コワーキングスペースとしての機能を備えている

# 瀧乃川源流の湧！優！悠！防災井戸作り（神奈川県）

## 地域の防災拠点と思い出の場所づくり

きっかけは2011年3月11日に起きた東

日本大震災。日頃から公園愛護会活動など、地域活動に取り組む近隣住民が「水の確保が大事だ」と考え「自分たちでも何かできないかと、これまでの活動でつながった仲間や、近隣の小学校のおやし倶楽部のメンバーにも呼びかけ、新たに動き始めました。手始めにそれまであまり手がつけられていなかった片倉うさぎ山公園内の瀧乃川の源流の湧き水でできた池で虫を飛ばすべく、池の清掃と改修に着手しました。一部から金気水（かなげみず）が出て汚れていたのを、地域の協力も得ながら定期的に清掃と整備を進めていきましたが、整備資金が課題となったことから「まち普請事業」に応募することになりました。提案



完成した防災井戸



防災井戸の建設は単管を組んだ掘削装置で全て人力で掘り進めた

類の作成等には苦労したとのことですが、見事にコンテストを通過しました。

池の改修では、水が澱んでいた池の真ん中に島を配置し、新たな流れを生み出すことで、水辺の生き物も棲みやすい環境をつくりました。また、底に積もっていたヘドロを全て掻き出して土を入れ替えたところ、新たに数か所から綺麗な水が湧き出るようになりました。

井戸の掘削は全て人力で行い、掘削用のドリルなどの器材も建設業を営むメンバーが製しました。子どもたちを始め、地域の人々が参加し地下7mまで掘り進めました。しかし、井戸からも金気水が出てきてしまいました。「これが一番ショックだった」と代表は語ります。飲料水とはなりません、生活用水

には池の改修に加え

て、災害の際に生活用水として活用することを目指して防災井戸の建設も盛り込まれました。申請書

として活用されます。

整備が終わっても、地域の住民の力は衰えません。2週間経つと池に金気水が溜まってしまうため、引き続き月に2回、池の清掃・整備を行っています。この活動は「自分たちが動ける間はずっと続ける」とのことです。

「私は地域の思い出づくりをしている」と代表は言います。「子どもたちは家の近くの池でメダカやどじょうを捕まえ、虫を見て、それが地域の思い出となる。この先どこに住むことになっても、近所のおじさんたちが井戸をつくっていた。そこでこんなことをして遊んだ。それを自分が親になった時に話してくれたい。」

震災を機に始まった、地域の防災井戸作りと池の整備の取組は、防災拠点としてだけでなく、子どもたちを思う「地域のオヤジとオフクロ」が背中を語る、コミュニティの拠点にもなったのです。



池の整備の様子  
こちらまでできるところは人の手で行った



**瀧乃川源流の湧！優！悠！防災井戸作り（神奈川県）**  
 整備主体：瀧乃川保存を考える会  
 整備場所：神奈川県片倉2丁目  
 整備内容：防災井戸、池の再整備（土止め、植樹、植栽、ヘドロ除去等）  
 竣工時期：平成26年3月



子どもたちを思う地域のメンバー

整備事例  
3

# 中川駅前中央遊歩道のルネッサンスプロジェクト(都筑区)

## 〜ひとが集まり、つながりがひろがる、花と緑のまちづくり〜

横浜市営地下鉄ブルーラインの中川の地  
上に出ると、花や木が描かれた歩道橋の階段  
が迎えてくれます。その階段を上がるとそ  
こは遊歩道。たくさんの花壇があり、植えら  
れた季節の花が目を楽しませてくれます。さ  
らに歩を進めると広場のケヤキの下にはベ  
ンチやステージ、歩道には花のベンチがあり、  
ほっとひと休みのできる魅力的な空間が現れ  
ます。これが「まち普請事業」で整備されたま  
ち並みです。

中川の地域住民の活動のスタートは、20年  
以上前にさかのぼります。転居してきた住民  
同士が、パチンコ店の建設問題を契機に、自  
分たちの住みた

メインストリートに続く階段は、  
中川西中学校美術部の手で華やかに彩られた

い街を考え、ま  
ちづくりのプラ  
ンをつくりまし  
た。実際の活動  
もしようと月に  
一度の街のゴミ  
拾いを始め、こ  
の活動は現在も  
続いています。  
この活動からル  
ネッサンスプロ  
ジェクトの活動



シンボル花壇



日々の水やりも人がつながる  
きっかけに

母体である「ぐるっと緑道」が生まれました。  
その後も様々な課題に取り組んでいきますが、  
その1つに中川駅前のにぎわいの停滞が出て  
きます。「商店街の遊歩道をもっと魅力的にし  
よう」と議論を重ね、「まち普請事業」に応募  
した結果、見事選考されました。開発時の中  
川駅前のまちづくりのコンセプトがドイツ風  
の「ネオ・ロマンチック」の街並みだったこ  
とから、提案名には「ルネッサンス(復興)」  
というフレーズを入れました。

「実は、通過してからが大変だった」と代表  
は言います。特に大変だったのが30か所以上  
の花壇づくりでした。一つひとつ花壇を設計  
し、植える花を具体的に決めていきます。酷  
暑だったため植えた花を毎日手入れしながら、  
さらに次の新しい花壇をつくっていく、この

途切れない整備が大変だったの  
です。

この時、大きな力になってくれた  
のが、ぐるっと緑道が地元企業と協  
力してつくったコミュニティカフェ  
のボランティアの皆さんです。花壇  
の手入れをしてくれる人を募集し、  
グループを結成したところ、少しず  
つ協力してくれる人が増えていき  
ました。現在は月に2回、グルー



ナーサリー(花苗育成所)には井戸も整備



中川駅前中央遊歩道の  
ルネッサンスプロジェクト(都筑区)

整備主体…NPO法人ぐるっと緑道  
整備場所…都筑区中川1丁目  
整備内容…遊歩道の再整備(花壇・プランター設置、  
壁面緑化、道しるべ設置等)、井戸、花苗育  
成場、ウッドデッキ、階段アート等

竣工時期…平成26年3月

# 提案が実現に至るまで

相談・応募から活用運営までの流れ



## アイデアと熱意が勝負

一次コンテストでは、提案グループが審査員と一般の参加者に提案内容を説明します。審査員との質疑応答を経て、公開の投票により通過する提案が選ばれます。



審査基準 ①創意工夫 ②意欲 ③公共性

## ここから夢がスタート

最初に出していただく書類は、簡単です。地域で取り組んでみたい施設整備のアイデアがあれば十分です。

応募

**ホップ**  
まずは前を向いて  
大きな一歩  
.....  
一次  
コンテスト

通過

相談

事前登録

## 活動助成金

一次コンテストを通過すると、まちづくりの専門家の支援や活動の広報などに使える、最高 30 万円の活動助成金を受けることができます。

## 意見交換と

計画づくりの段階で、提案グループと審査員、まち普請事業の先輩と意見交換できる場です。二次コンテストに向けて、具体的なアドバイスを受けることができます。

特色

## 1 いつでも相談対応

- 市の担当者から、事業の詳細、応募の要件などをご説明します。「無理かな？」と思うものでも、方法はあるかもしれませんので、お気軽にどうぞ。
- <事前登録>という制度があり、登録するとまちづくりの専門家の派遣を無料で受けることができます。

## より具体的な提案

二次コンテストでは、より具体的になった提案を発表します。発表は、映像を用いるなど、各グループが工夫を凝らして取り組みます。二次コンテストも公開で審査され、助成対象が選考されます。



### 審査基準

- ①創意工夫 ②実現性 ③公共性
- ④費用対効果
- ⑤地域まちづくりへの発展性

**ジャンプ**  
年をまたいで  
ゴールへ向かう  
整備  
(次年度)

**ステップ**  
上を目指して  
さらに前進  
.....  
二次  
コンテスト

**通過**

### 整備・活用運営

つくって終わりではありません。維持管理、活用運営を通して、まちづくりの輪を広げていきましょう。

### 整備助成金

二次コンテストを通過すると、設計費、工事費、工事監理費などに使うことができる最高 **500万円**の整備助成金を受けることができます。



活動  
懇談会

### アドバイス



特色

**2**

### 2回の公開コンテスト

まち普請では、2回のコンテストにより、整備提案の内容が審査されます。いずれの審査も公開で行われ、参加者とともに「まちづくり」のアイデアを検討します。

特色

**3**

### 提案検討会

二次コンテストに向けて提案の実現性を高めるために、グループと関係者が話し合う場です。市もバックアップします。

ヨコハマ市民まち普請事業

# 整備事例集 vol.8

平成 25 年度整備事例集

- 発行 平成 26 年 9 月  
横浜市都市整備局地域まちづくり課  
〒231-0017 横浜市中区港町 1-1 TEL 045-671-2679 FAX 045-663-8641
- 編集・デザイン 特定非営利活動法人 アクションポート横浜
- デザイン・印刷 株式会社野毛印刷社

ヨコハマ人・まち  
-まちの人がまちをつくる-

身近なまちづくりに役立つ無料のメールマガジン「ヨコハマ人・まち」を読みませんか？

メールマガジンについてはホームページをご覧ください。

ヨコハマ 人・まち

検索

